天智天皇

秋の田の
かりほの
とまをあらみ
わがころもでは
つゆにぬれつつ

持統天皇

春すぎて夏きたるらし
白たへの
衣ほすてふ
あまの香ぐ
山

柿本人丸

足曳の山鳥の尾の
しだり尾の
長々し夜を
ひとりかも寝む

中納言家持

鶯の
ハツネギ
ものうらせる
ワヤ
きりかな

おくれ
ものう

白き
キ
ものみれば
レ
ものうらぶ
ケル
ものうらぶ

安倍仲麿

あまのはら
ふりさけみれば
かすがなる
三笠の山に
いでしつき
かも

素盞嗚法師
ちからの庵
あつい
庵をすむ
世をすてるもの
人をいとふ者

小野小町

蟬丸

参議 菅
和田の原こぎ出
まぎらけ
つぐめと
人にはつげな
あまのつりふね

僧正遍昭
あまつかぜ
くものかよひぢふきとぢよ
をとめのすがたしばしとどめん

陽成院

くだのゝ水の
とりあつゝ
つゝもの
川

五つぐ
つとりて
ゆもち
ぢりめる

光孝天皇

君がため春の野に出て若菜つむ
わが衣手に雪は降りつつ

伊勢

難波がた
みじかき葦の
節の間も
あはでこやの
すがこもりとは

元良親王

文屋康秀
ふくからにあきの
すがたを
しばしとゞめん
むべ山かぜを
あらしといふらん

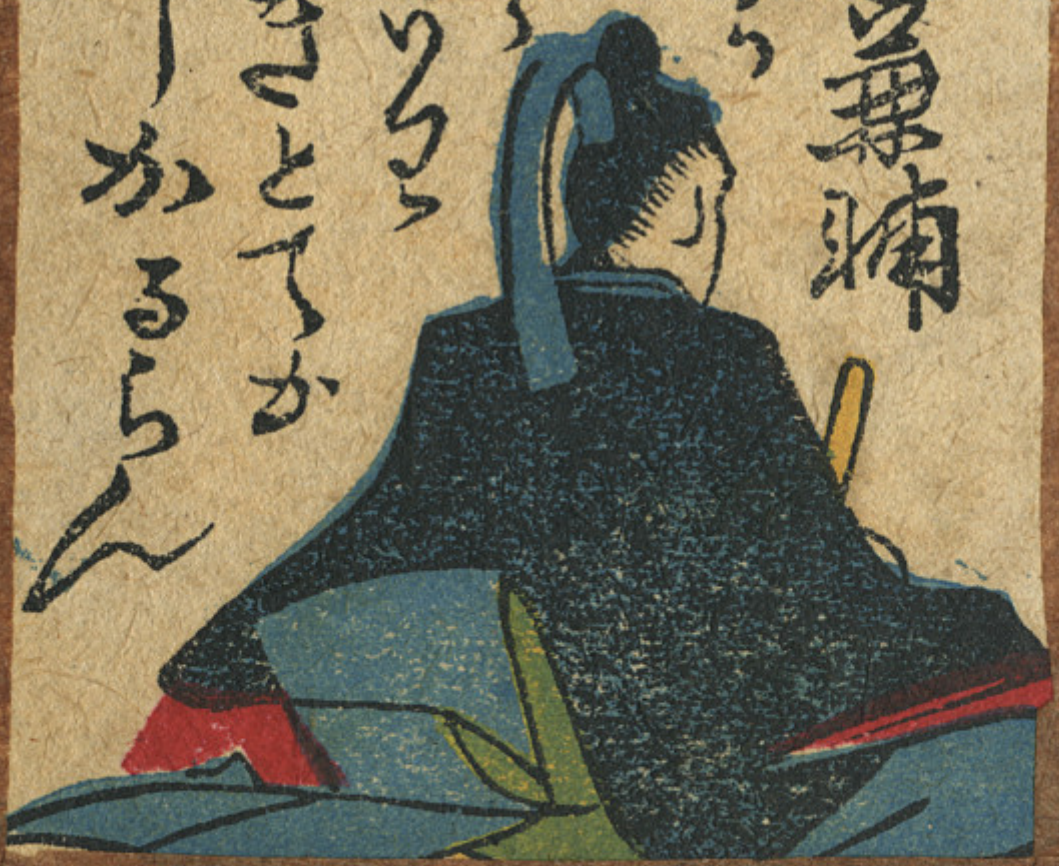
蒼山家
世をうらめしきも
どりあつぼ
白山
すみよしの
神のまもり

三條右大臣

貞信公

中納言兼輔

みちのくに
わたる
すずろ
ふる
ゆづみさとてか
あひかるらん



九河内新姫
さらばあてる
樹ラだや
ほうん
はッシモ
おもさよりは
ちゃ菊のたゝ

東道列樹
山の手原の
ちくのまつ
あ〜ぬのみち
なりけるまま

清泉源寺長老
夏の夜へ
まくらもとに
あらはれ
あるものを
ゆめのつづきと
思ひぞるらん

右近

参河萬歳
なのるだけのお角の
まのもらひ
ありがたいとなるとう
人れもひき

年亀盛
あつぶもと
をてふでさ
ひろことひへ
りのゆろふと
人れとを手のぶ

生は忠見
こゝろをこそ
なやますなれ
かりそめのこと
人をこそ
あはれ
おもひ
あまり

中納言朝忠
わびぬれば
今はたおなじ
なにわえも
人をも
身をも
つくしてや
あはむとぞ思ふ

藤原公
あしたのつゆべき
人にあきも
わへて
身のいたづらに
なりぬるかなき

曽根好忠

遍照法師

孫原義孝
男ぐたれおー
くるさまー
のちさく
あのぐるぐるなのと
男ひめるれ

右大將道綱母

なげきつゝひとりぬるよのあくるまは

いかに久しきものとかはしる

俊成卿三位母
ワスレ
ちはやふるの
やくもたつ
あさくらやま
ちりをかぎりの
命かなしも

大納言公任

和泉式部
なつごろも
はやせのなかれ
おちたびて
ふくひとたびの
なみだかな

赤染衛門
やすらはで
ねなましものを
さよふけて
かたぶくまでの
月をみしかな

小式部内侍
大江山くの
みちのとをゝ
ゆきもみぬ
ふみもみず
あまのはし

伊勢大輔

いにしへのなゝ世
なれのはなさくらかな
けふ九重に
にほひぬるかな

清水流れて
所もとこそえて
多のそらの
はらるとも
世ふたのかさの
せきあゆる
さしドル

梅の花さき匂ふ
春のあけぼの
川のほとり
ゑびすぶね
なりはひさかる
せどのあるじ

相撲

前大僧正行尊

もろともにあはれと思へ山桜

花よりほかに知る人もなし

関防内侍
まつの色の
ゆえなきは
なまうらめ
しひちく
あくん
みるにえ

三條流

仙ふ[illegible]

[illegible]

すぐらへい

[illegible]

[illegible]

能因法師
所ふく三宝の
弟子親鸞ハ
角川ゑ
川柳
ゆきの名残

良還法師
しびさま
ものとうち
いでぐ
ちるもぬべ
いつこ離れど
ものかぐれ

大納言俊信
ゆふざれごと
門向の
ちるはなびらを
乃しのまうわさ
秋くれぬるか

源俊頼朝臣

うかりけるひとを
はつせの
山おろし

よ
はげしかれとは
いのらぬものを

藤原基俊

関白
大臣

岩井浜流
世をうぐいす岩井
せうとく
紙屋の
内儀
あもり

源兼昌

わたのそこ
かけてこぎいる
あまの
ふねとも
見えまがう

右京太夫業平
秋たゝふれたゝぐく
ものゝあへま
より
紅葉
いづる月の
かげれさあゝ

ほとゝぎす
なきつるかたを
ながむれば
ただ有明の
月ぞのこれる

道因法師

こひびさても
命は
るのみを
つゆふたへぬる
なみさまりを

豊太閤宮大夫俊成
世の中よ
なにかは
ありとも
ひとの
おもひ
なくてぞ
なる

西行法師

寂蓮法師

式子内親王
あはれとも
なにとかは
なげくらへた
ゆるこころの
ちりぢりぞする

殿富門院大輔

大はちぼ

二條院讃岐

我なくば
誰かまた
みあれの
つゆ
人とはまし
物をおもふ

猿舎右大臣
世の中へ出よう
あまの
つるぐらもなし

参議雅經
みよの山の
山風秋
十よあそ
ふるさと
ろつあり

前大僧正慈圓

あはれなく
うらみよの
ながき
ひとをうらみて
月をなげくの
涙の袖かな

道真大政大臣
流されて
あとのこの
春をわすな
ゆきかうて
梅の花
つがの
ナリケリ

ゆるぐ也ハ
みをぎぬ
夏の
なりけり

順徳院

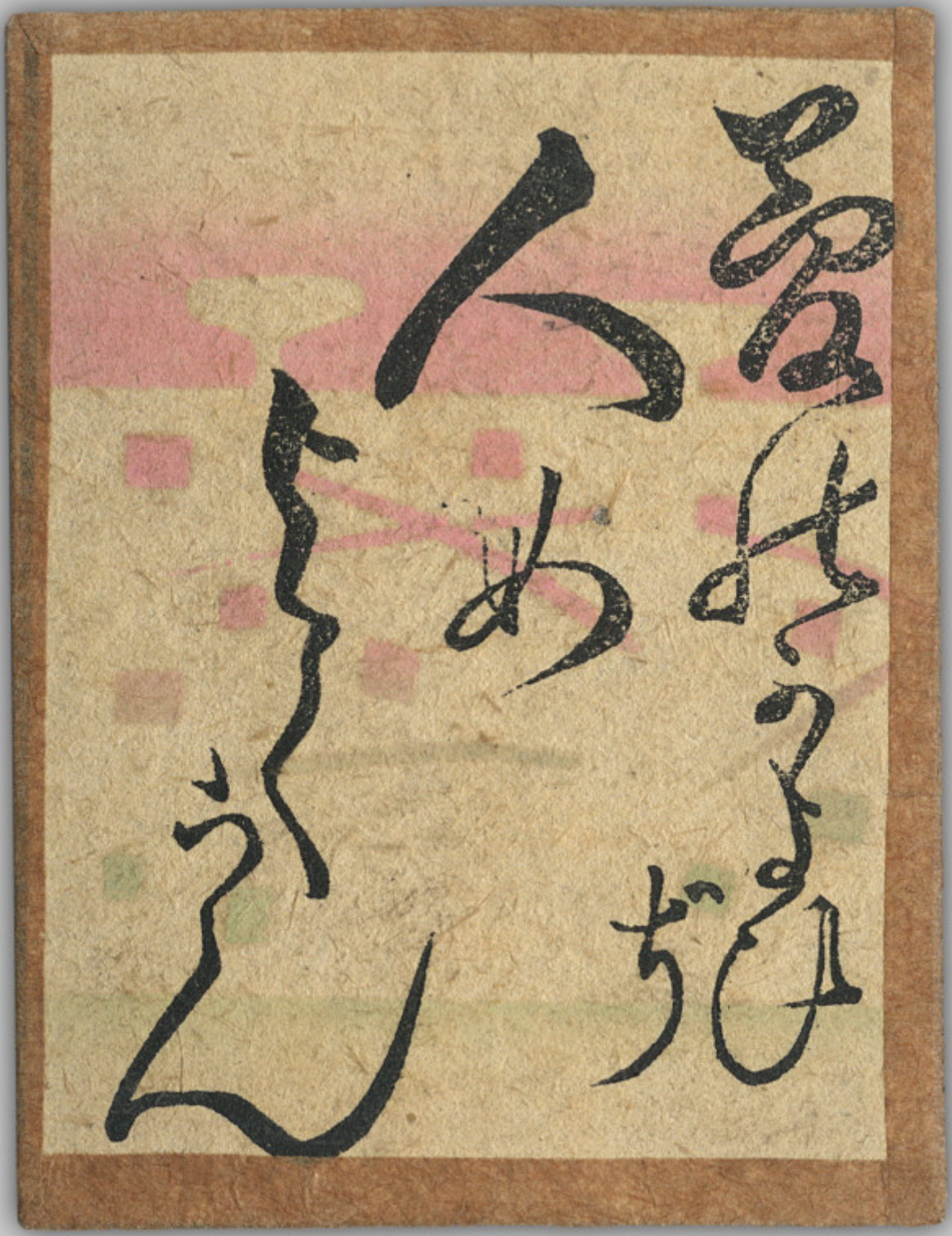
百人一首

夜明け
天の
如く

明治三十年

夢の浮橋

もゝ
ゑり
まるこ
ゝろ
ぢ
ぞ
ゑん


愛敬ある
人
ぶり

# 地獄風

秋風に
ひとつ
ちりて
あるは
ら
ぬ
ぞ

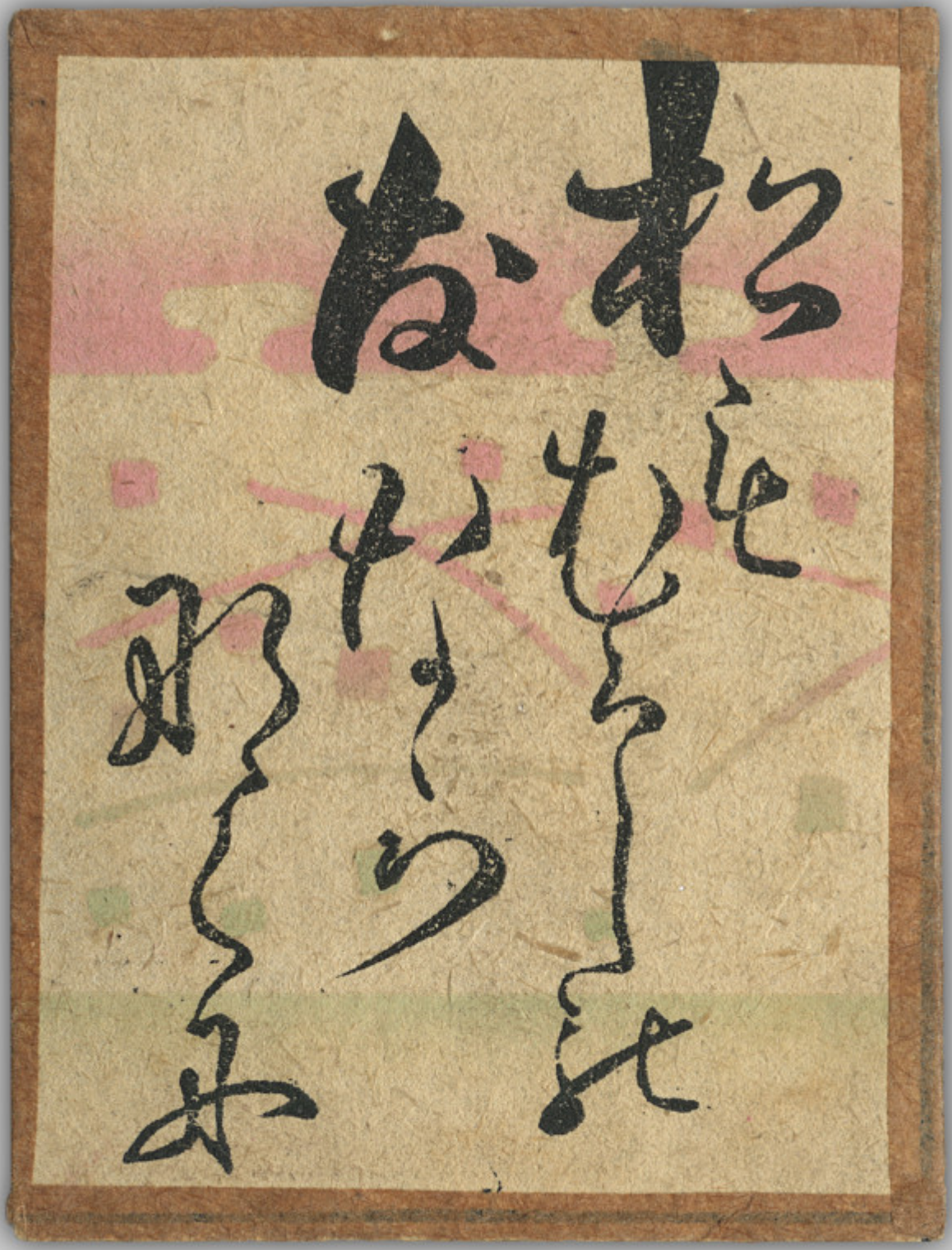
以手一点
御書き
陽さ

人めをもとむるは
かりなるべしと
思へども

松まつのあるら
まつらの国の
さを姫

流水之始
立夕
明月之理

# 高度成長
# 春夜
# 春雪



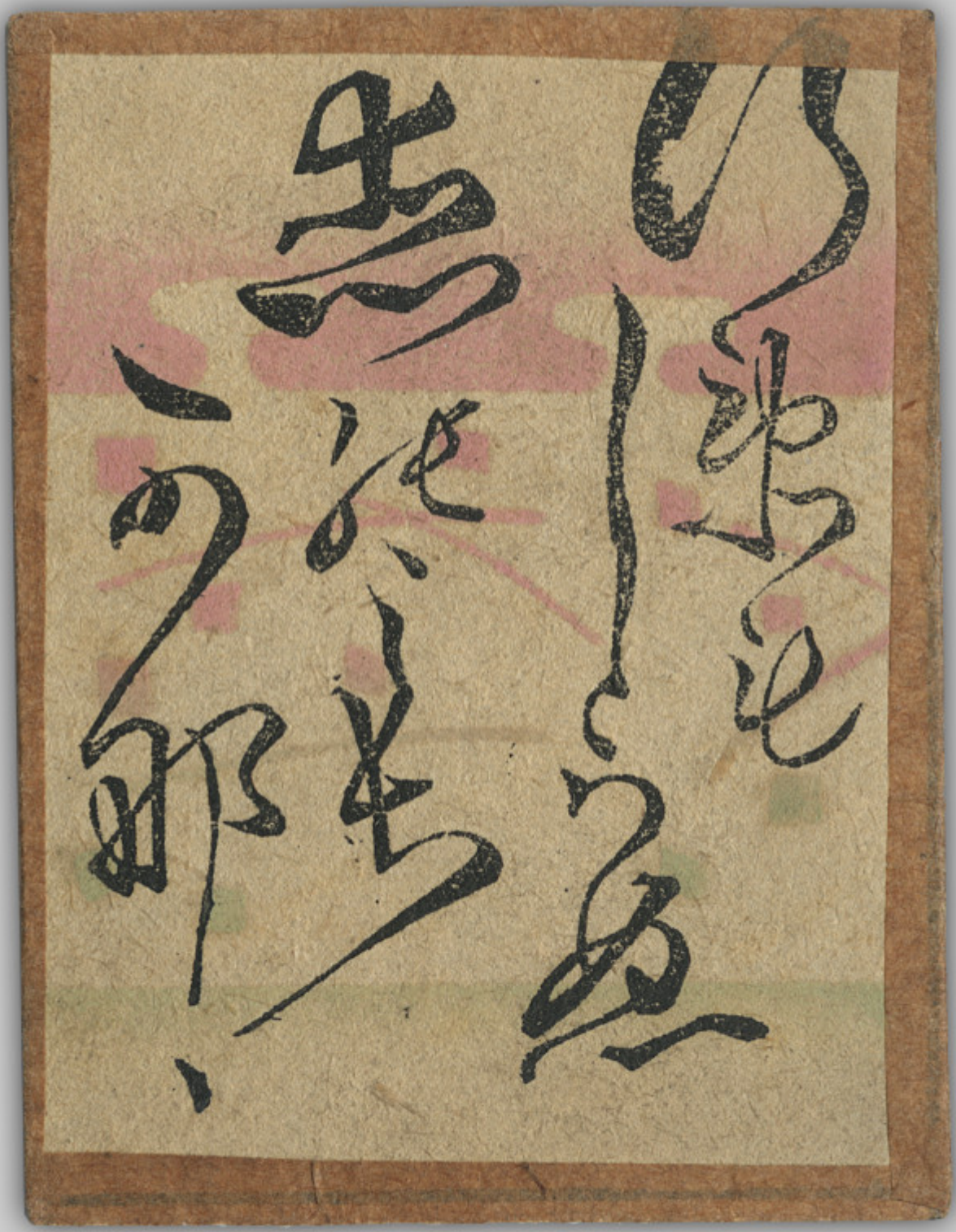
雲
月
ゆめ
ぬ
ぬ

今命北
先ゝ七
歩ゝ形

何ぞ
人の
意

東京名所

君の心づかひ
なかりせば
なほきらめ



くらべこしふるさとの
はなもかはらず
とはるかな

春の来りて
命を
うる形

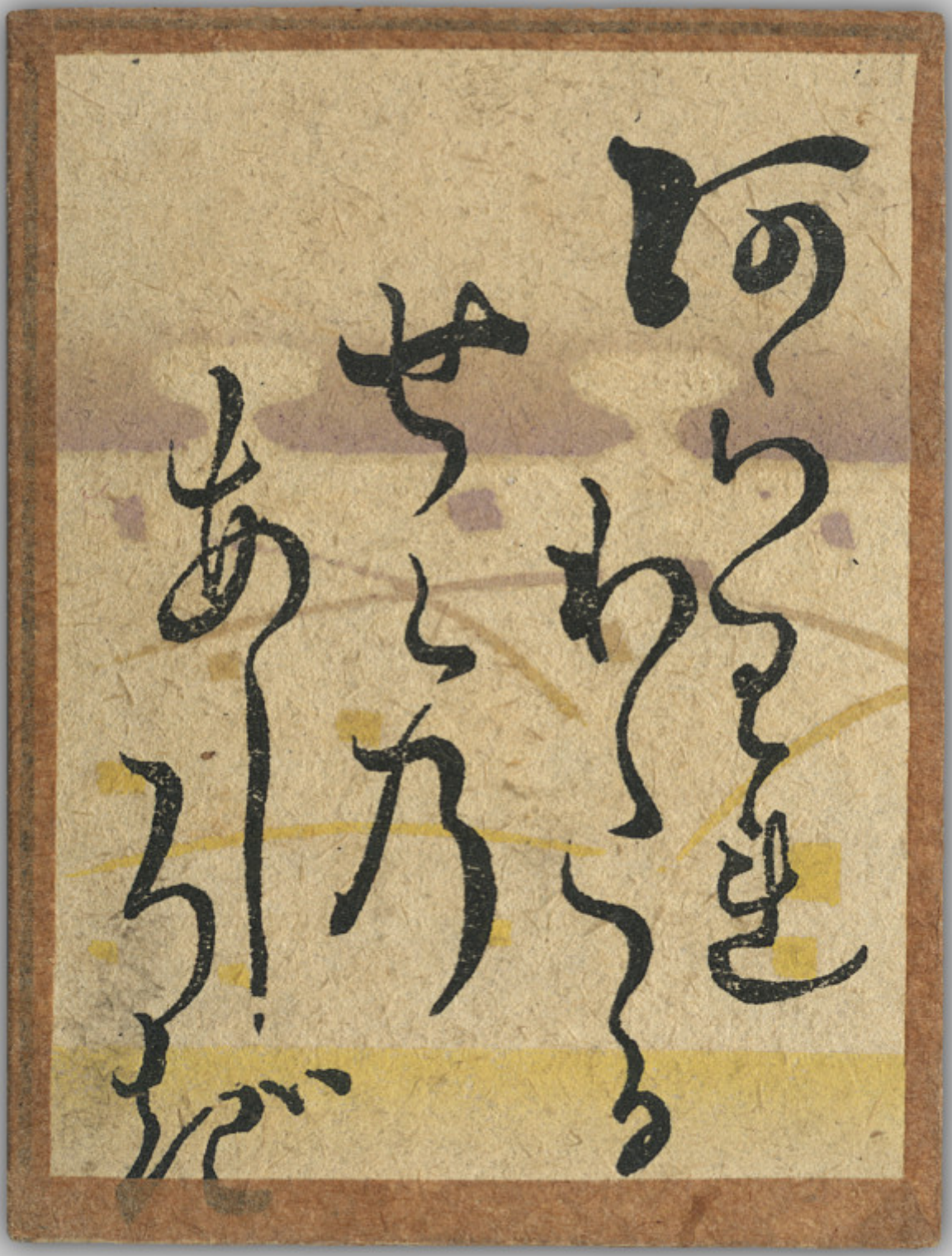
今こそ
別れめ
いざ
帰

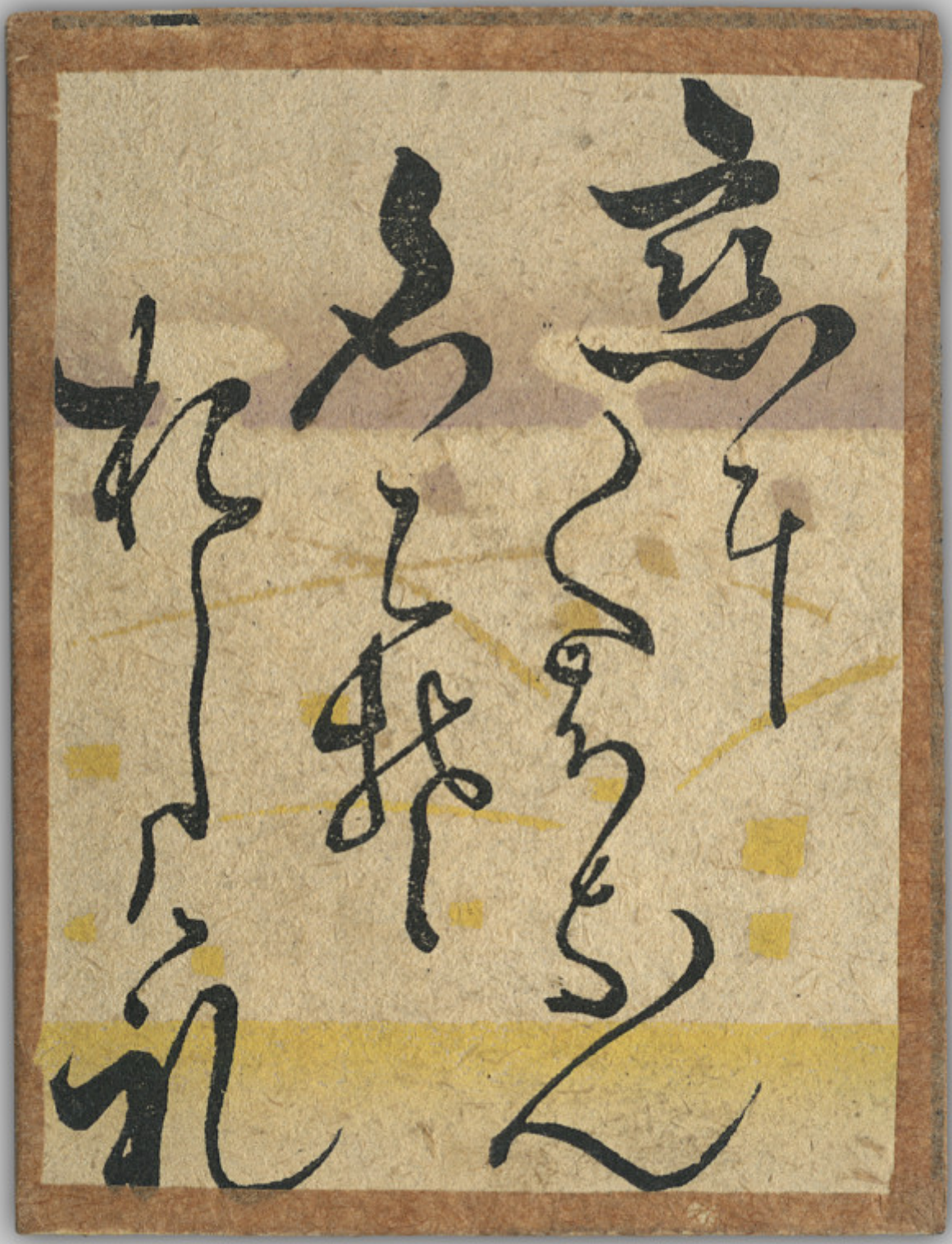
出雲
名所
めぐり

かさゝぎ
のわたせる
はしの
うへしも

伊勢物語

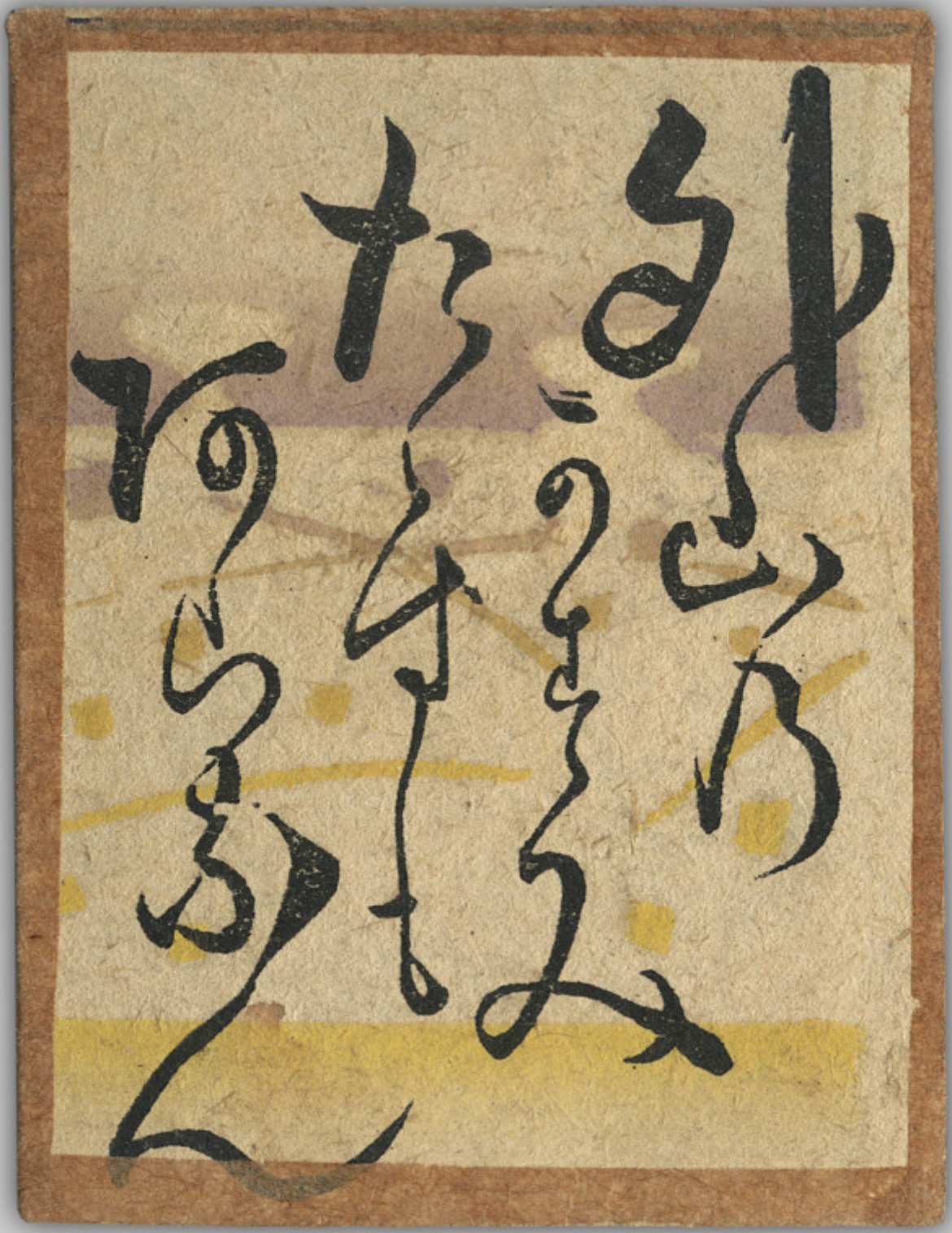
世をよそに
山とうの
ゆめ





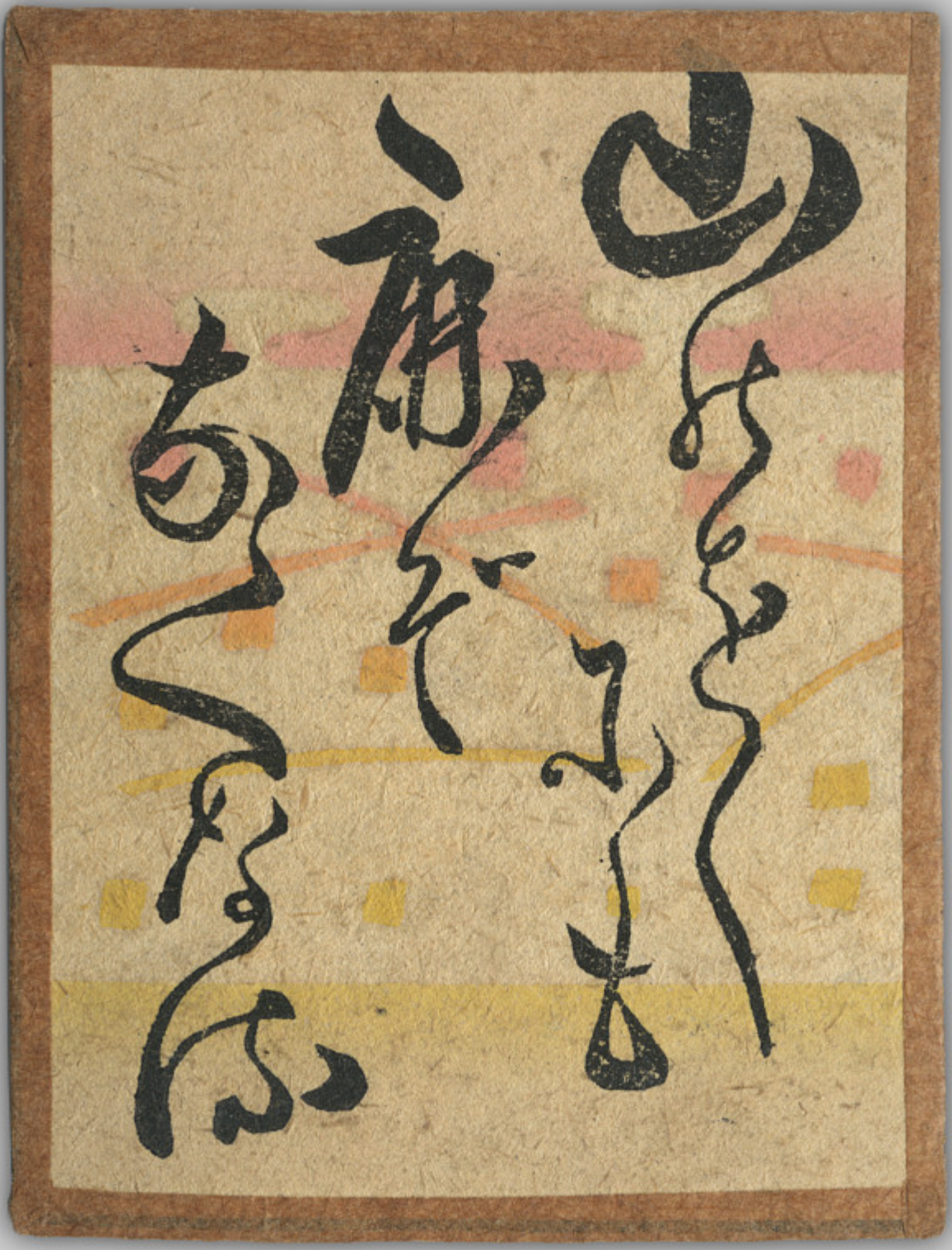
# 花はなぞ

# 明神の物語

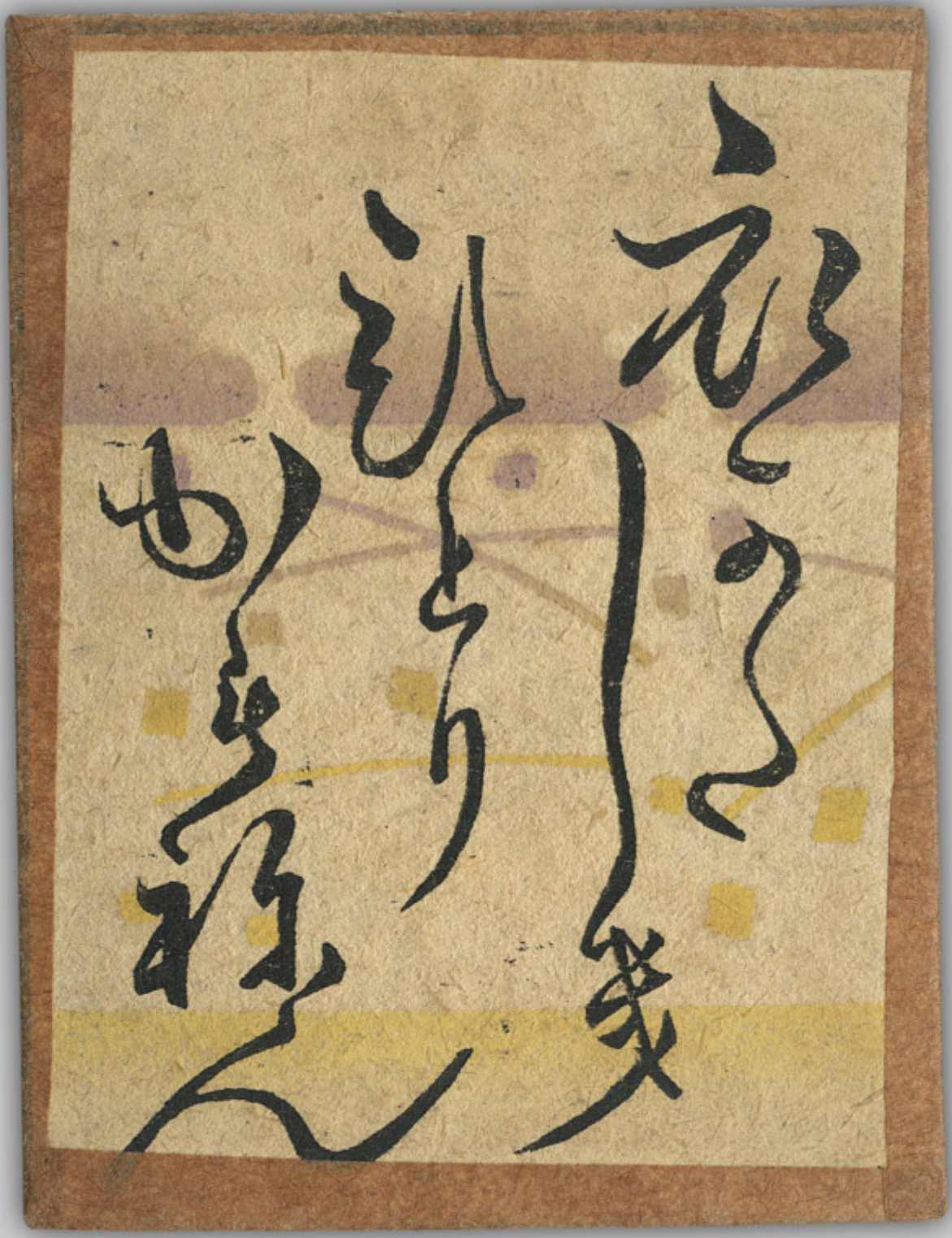


東海道
五十三次

みなせがわ



雪花の時
秋乃紅葉



人
為
之
称
於
野
生

御發句
春長意
[illegible]

世
の
中
は
夢
か
う
つ
つ
か
物
思
ふ
我
は
目
さ
め
て
か
ら
の
ち
の
ち
の
ち

歌留多一組
深山光

秋田産
人参
深浦

歌留多一組
深山光